

## 第166回:重盛の心境

ヘッポコ政党が掲げる守れもしない約束のことを「マニフェスト」と呼ぶようだが、学生運動華やかなりし頃のマニフェストと云えば、即ちマルクスの共産黨宣言(Manifest der Kommunistischen Partei)であった。その共産黨宣言は「欧州を亡霊が徘徊している、共産主義と云う亡霊が」と云う有名な書き出しから始まっており、書店でここだけ立ち読みしてRedの雰囲気を感じた人も多いと云う。

最近気がついたのだが、いまインターネット上にも亡霊が徘徊している。「アフィリエイト広告」と云う名の亡霊が。仕事柄、筆者のネット検索のボリュームは半端ではない。人の数十倍は検索しているはずだ。人によってネット検索の領域が異なるのは当然であり、筆者は証券会社に身を置き、エコノミストとして金融経済と中国の研究に携わっている関係で、中国情報の検索に加え、複数の証券会社のサイトに毎日アクセスしている。この行動を解析した利口なコンピュータは筆者が「証券」と「中国」に大変強い興味を示す人物だと判断したようだ。その判断は正しいが、筆者のPC画面に毎度毎度中国株に強い証券会社の広告をぶつけてくるのは勘弁してほしい。「やかましい！ オレだっているが中国株を仕込むチャンスだと知っているが、職務上中国株が買えないんだよ！」と、広告に登場するメガネが似合う可愛いモデル嬢に叫びたい。広告そのものはセンスの良い出来栄だが、ネット検索回数を増やせば増やすほど、広告が多数登場するのが鬱陶しい。モデル嬢には「ステッカーは止めなさい。そんなにオレにまわりつきたければ、本人が出頭しなさい。一緒にワインでも飲みながら中国株の話でもしようじゃないの」と云いたい。

こないだ、香港の中国語サイトで情報を集めていたら、突然例の証券会社の広告が登場し、ゲッ！と吃驚していると、ニュース画面のヘッドラインが「徐才厚打破伝言再度亮相中国軍方媒体(徐才厚上将、ウワサを打ち消し、解放軍系メディアに再登場)」とあるのを発見し、腰を二回も抜かしそうになった。ニュース概略は以下のとおり。「中央軍事委員会前副主席の徐才厚上将が、中国国防大学校長王喜斌上将の著書【ここから戦場へ】のために序文を執筆し、本著を高く評価した。以下に国防大李升泉少将による徐才厚序文と、王喜斌著書に対する評論を掲載する。(以下略)」

それがどうしたと云われても困るのだが、これ中南海の竹のカーテンのなかで展開している権力闘争のカギを握るビッグニュースである。「徐才厚失踪＝アウト」が疑われた大事件は結果的にセーフで終わったが、疑惑のなか信頼できる情報が乏しかったため、日本のメディアもこれまで報道を避けてきたようである。

習近平が去年末に中国最高指導者に就任し、彼はいま人民の支持を得るため、不正腐敗の根絶に全力を挙げている。人民日報によると習近平は1月22日、不正追及の総本山である党中央規律検査委員会の会議に出席し重要演説を行った。習総書記は「全党同志は第18回党大会の趣旨に従い、鄧小平理論、(江沢民の)『3つの代表』思想、(胡錦濤の)科学的発展観をもとに、個別対策と抜本的対策の併用、総合的対策、懲罰と防止の併用、予防重視の方針を堅持し、より科学的効果的に腐敗対策を行い、確固不動として清廉な政治を行う党風樹立と反腐敗闘争を深めていかなければならない。(中略)。懲罰の手を決して緩めてはならない。『虎』と『蠅』を共に叩き、指導幹部の規律・法律違反事件を断固取り調べて処分すると

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

共に、大衆の身の回りで起きる不正傾向と腐敗の問題を的確に解決しなければならない。(以下略)と強調した。この重要演説のキーワードは「虎」と「蠅」にある。悪事を働く奴は、政治局委員でも木っ端役人でも、胡錦濤派でも江沢民派でも手加減しないという宣言であり、巷では「蠅」はともかく、「虎」は薄熙来だけではすまないだろうと噂されている。最近中央では鉄道部の受注案件に絡み劉志軍鉄道部長が解任され、地方では四川省の李春城副書記が規検委の取り調べを受けるといった閣僚級のスキャンダルが続くなか、昨年末には、更に上の党中央宣伝部長の劉奇葆政治局員が北朝鮮、ベトナム、ラオス訪問をドタキャンし、彼の動静が一時途絶えたことがあった。一部の香港紙が「劉奇葆は四川省時代の経済問題で取り調べを受けている」と報道したことから、いよいよ虎退治が本格化するかと噂されたが、彼はほどなく復活した。

その劉奇葆政治局委員以上に関心を集めていたのが徐才厚上将の所在不明事件だったのである。昨年11月の第18回共産党大会で10年続いた胡錦濤時代が終わり、最高指導部の大規模な異動が行われた。人民解放軍の最高指導部は中央軍事委員会にあり、胡錦濤主席時代の副主席は習近平、徐才厚(上将)、郭伯雄(上将)の3人であった。徐才厚の序列は第3位だが、主席の胡錦濤、次席の習近平は文民であり、彼はつい数カ月前まで解放軍制服組のトップに君臨していた人物である。彼の引退は定年のためであり、ここにサプライズはないが、中国の軍事委員会は党军委と国家军委の二枚看板となっており、前者の異動は昨年11月の党大会マターだが、後者は形式上3月の全人代の手続きが必要となる。従って、徐才厚は全人代に参加する義務があり、同時にそれが彼の最後の晴れ舞台になるはずであったが、なんと彼はこの会議を欠席したのである。多少の病気であれば這ってでも参加せねばならない行事を欠席する理由は大病か身柄拘束しかない。米有力華字紙の報道によると、徐才厚はそのとき、昨年汚職容疑で失脚した谷俊山前総後勤副部長に関連して取調べを受けており、シロクロが決着していなかったため無理やり「欠席させられた」のだという。この手の政治絡みの噂の真相はよく分からないが、劉奇葆政治局委員が胡錦濤と同郷の安徽省出身であり、胡錦濤が共青团第一書記を勤めていたとき、現首相の李克強や現副主席の李源潮と共に胡錦濤を支えた腹心の部下であることは事実である。徐才厚上将が江沢民によって上将に抜擢され、江沢民との関係が極めて緊密な解放軍のキーパーソンであったのもこれまた事実である。

習近平の蠅叩きは順調のようだが虎退治は難航している。習近平は疑惑の二人に手を出さず度胸がなく、大魚を逃したと専らの噂である。誰が法皇で誰が清盛とは云わないが習近平の虎退治の心境は「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず、重盛の進退ここに谷まれり」に違いない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成25年5月2日

## 筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本<sup>の</sup>常識は中国<sup>の</sup>非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号  
日本証券業協会 加入  
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

#### ①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%（税込み）（約定代金が260,869円以下の場合、3,150円（税込み））の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8400%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

#### ③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%（税込み）の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%（税込み）（約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円（税込み））の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。